



92nd ALL JAPAN HIGH SCHOOL SOCCER TOURNAMENT

1_ゴール際での攻撃にDF 森田^{ひい}が必死のクリア。何度も押し寄せる相手の攻撃に守備陣は体を張って守った 2_後半開始直後、本間が鋭く抜け出し同点ゴールを押し込む 3_待望の得点に遠高サポーターの歓声がスタジアムにとどろいた 4_後半、攻撃に打って出るも相手の固い守りにははまれる 5_岩手最強イレブンが全国に挑んだ 6_試合終了のホイッスル。選手はピッチに泣き崩れた

すでに始まっている。同校の挑戦は、次へのキックオフ。試合終了のホイッスルは、



Interview 3

現主将(2年)
杉山 航平 君

Kohei Sugiyama

全国で勝つためには、当たり負けしない身体が必要。筋トレや走り込みに打ち込み、チーム一丸となって全国の頂点を目指したい。



Interview 2

前主将(3年)
本間 達那 君

Tatsuya Honma

後輩には、またこの舞台に立てよう日々の練習を大切にしてもらいたい。自分も全国の経験を生かし、プロを目指してサッカーを続ける。



Interview 1

監督
長谷川 仁 教諭

Hitoshi Hasegawa

全国では組織的なサッカーに加え、個人の技量も求められると痛感。体力・技術・戦略を再度磨き、全国で通用するチームづくりを心掛ける。

Game Result
12月31日 フクダ電子アリーナ(千葉)

遠野	1	0-1-2	3	那覇西
得点				
本間(43分)				中田(27分) 新城(46分) 新城(79分)
シュート数				
前半 0本 後半 4本				前半 3本 後半 4本

—第92回全国高校サッカー選手権大会ダイジェスト—

遠高イレブン、沖縄代表に力出し切れず初戦敗退

県内主要3大会を制し、今シーズン「岩手最強」となった遠野高校サッカー部。満を持して臨んだ大舞台では、力を出し切れず初戦で涙を飲んだ。全国に挑んだ同校の熱戦を振り返る。

13 時45分、試合終了のホイッスルが鳴り響き、遠高イレブンはピッチに泣き崩れた。

第92回全国高校サッカー選手権大会は昨年12月30日から1月13日までの7日間の日程で行われ、国立競技場などで熱戦が繰り広げられた。同校は31日、千葉県のフクダ電子アリーナで、沖縄県代表の那覇西高と対戦。県内3冠を果たし、満を持して臨んだ初戦だったが、同校らしい「堅守からのカウンター」を十分に発揮できず、1対3で敗れた。

前 半は、初戦の緊張のためか動きが硬かった。相手陣内で攻めきれず27分に失点。「かなり研究され、マークが厳しかった」とFW本間達那。主将が振り返るように、相手の固い守りにははまれ、シュートを1本も打てずに前半を折り返す。ハーフタイムで長谷川仁監督は、積極的に攻撃に出るよう指示。開始3分、MF畠山遼のスルーパスを主将の本間が右足で押し込むと、駆け付けた遠高サポーターの歓声がスタジアムにとどろいた。しかし、直後の6分に勝ちこされ、再び追う立場に。その後、何度も相手の激しい攻撃にさらされるが、DF及川林貴を中心に体を張った粘り強い守備でしのいだ。「早く同点に追いつきたいという焦りからか、ただ前にボールを蹴り込むだけの単調な攻めになっちゃった」と長谷川監督。ポ

ルを奪い、カウンターを試みるも、つながらない。体格差のある相手の当たりは激しく、中盤の攻防でことごとくつぶされた。終了間際の39分には3点目を決められ、万事休す。序盤に相手に傾いた流れを引き戻すことができないまま、試合は終わった。

し かし、同校の「走るサッカー」は健在だった。ホイッスルが鳴るまであきらめず、歯を食いしばってボールを追う姿は多くの人に感動を与えた。そのひた向きの姿は、次を担う後輩たちや、全国を目指して遠野高校の門をたたく中学生たちにも勇気を与えたに違いない。遠高イレブンの活躍に、大きな拍手を送りたい。

試 合終了のホイッスルは、次へのキックオフ。同校は現在、新体制でスタートを切っている。部員たちは、凍てつく遠野の地で、寒さにも負けず必死にボールを追っている。目標はもちろん全国の頂点。ペンギンユニフォームは、きっとまたこの大舞台に戻ってきてくれることだろう。

